



賛助会員・機関誌購読者のみなさま、および
「3.11 からの出発」活動基金にご寄付くださったみなさまへ

「3.11 からの出発」活動のご報告 No.7

松岡 享子

被災地に二度目の冬がやってこようとしています。床暖房のおかげで、「ちいさいおうち」は、この冬も、来る人をあたたかく迎えることができるでしょう。

「ちいさいおうち」にとって、この数ヶ月のいちばん大きな出来事は、隣に市立図書館となるログハウスが建ったことです。これは、陸前高田市が、北海道のボランティア団体から寄贈を受けたもので、震災で図書館を失った市が、とりあえず活動の拠点として使用することになっています。最初、この話のもちあがったときは、太い丸太を積み上げた本格的なログハウスかと思い、ちいさいおうちが影にはいって、陽も当たらなくなるし、外も見えなくなるのではと心配しました。実際、市側からも移動を希望するかどうか打診があったりして、ずいぶん考え、関係者と話し合いを重ねました。

その結果、ちいさいおうちは「お引越し」をしないことに決まり、八月に、隣接する土地にログハウスが建ちました。建って見ると、それは丸太ではなく、製材した木材でできた小ぶりのログハウスで、高さもちいさいおうちと変わらず、間に移動図書館車が駐車できるスペースをとってあるので、ちいさいおうちから見て、ほとんど圧迫感はありません。

わたしは、9月12日、ログハウスができてから初めて現地を訪れたのですが、ちょっと離れたところから見ると、二つの建物は、兄妹のように見えました。ちいさいおうちは、しっかり者の妹といった感じで、いざというときには、ヘンゼルとグレーテルのように、お兄さんを助けて、兄妹ふたり仲良くやっていく姿を将来に思い描くことができました。“お兄さん”は、今年中に開館し、市立図書館のおとなへのサービスを一手に引き受けてくれることになっています。

9月12日は、小友小学校の一日公開参観日でした。わたしは、5年生と、1・2年生のお話、それに6年生の「キャリア教育」の授業を担当しました。今回同行した張替、内藤、加藤の三人の職員が、3・4年生の時間を担当して、お話とブックトークをしてくれました。

1・2年生は、この前聞いたお話をよく憶えていて、「もう一回！」とせがまれ、どのお話も、“知っているからこそそのたのしみかた”をしてくれました。こうやって、だんだん仲良くなっていくんだなと思い、くりかえし訪ねることの大切さを改めて感じました。5年生には、「おはなしのろうそく28」にのっている「美しいおとめ」を語ったのですが、後日、子どもたちがそれを気にいって、劇にすることになったとの知らせがありました。どんな劇になるのでしょうか。たのしみです。



6年生の「キャリア教育」というのは、将来の職業選択の参考になる体験談を、実際にその仕事をしているおとなの口から聞く、というのが眼目と思われます。そこで、わたしは、内藤さんの助けを借りて、「小石投げの名人タオカム」を語ってもらい、どこの国のお話か、子どもたちに当てさせることから話をはじめました。そして、その話が日本語で読めるようになったのは、ユネスコのアジア共同出版計画というアジアのたくさんの国と人が協力した事業の成果であること、一般に原稿を書くところから、本になって出版されるまでの過程にどんな人が関わっているか、また出来上がった本を読者の手に届けるにも、書店員や、図書館員といった人が働いていること等々、本に関係する数多くの職種について話しました。とくに、子どもたちが、将来、日本だけでなく、広く世界も視野に入れたキャリアを思い描いてほしいと願い、国際的な仕事のことにもふれました。大きな可能性を秘めた子どもたちが、それに見合う大きな夢をもって、明日に向かってすすんでいってくれるようにと祈りながらの“授業”でした。

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町 1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 ゆうちょ銀行／郵便局 口座記号番号 00130-9-115393 加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館